

PRESS RELEASE

令和 7 年 5 月 22 日
岡 山 大 学
株式会社ベネッセコーポレーション

長期入院を要する子どもたちに学ぶ機会の充実を！
～岡山大学病院小児科とベネッセコーポレーションが共同研究契約を締結～

◆発表のポイント

- ・岡山大学病院小児科と株式会社ベネッセコーポレーションは、長期入院患者に対する教育支援の最適化を目的として共同研究契約を締結しました。
- ・岡山大学病院小児科では、ベネッセが提供する「進研ゼミ」タブレット教材を活用して、長期入院する患儿に対する教育機会を拡大するとともに、将来の社会復帰や QOL 向上につながる支援体制の構築を目指します。

岡山大学病院小児科には、長期入院を要する難治の患者さんが多数入院されています。岡山大学病院には院内学級が設置されており、こうした長期入院を要する子どもたちは、学習機会の保障という点では非常に恵まれた環境にありますが、学年や学力、治療状況に応じた個別最適な学習支援、さらに意欲の維持・向上を図る仕組みの構築など、さらなる充実が求められているのが現状です。こうした背景を踏まえ、岡山大学病院小児科は、子どもたちの教育的・社会的ニーズに応えるべく、株式会社ベネッセコーポレーション（本社：岡山市北区）と共同研究契約を締結しました。

本共同研究では、ベネッセが提供する「進研ゼミ」タブレット教材を用いて、入院中の子どもたちに個別に応じた学習支援を行います。

今後は教育学部や情報科学分野と連携し、学習支援の中で得られた記録を用いて、学習中の子どもたちの活気や意欲を分析する研究も計画しており、教育支援の最適なタイミングや方法の確立を目指しています。

この取り組みにより、長期入院を余儀なくされる子どもたちの「学ぶ権利」を守り、将来の社会復帰や QOL 向上につながる支援体制の構築が期待されます。

◆研究者からのひとこと

- ・学術研究院医療開発領域（岡山大学病院）小児血液・腫瘍科 助教 石田 悠志

普段は小児がんの患者さんを診療しています。この共同研究は、医療と教育、そしてテクノロジーが連携し、長期入院を余儀なくされる子どもたちの学びと成長を支える新たな仕組みを構築する重要な一歩です。長期入院中でも、学ぶ意欲を保ち、自分らしさを失わずにいられる環境づくりを目指しています。



石田 助教

PRESS RELEASE

・株式会社ベネッセコーポレーション 塾・教室カンパニー 担当 後藤 渉

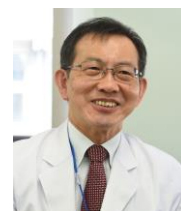
ベネッセの企業理念『よく生きる』のもと、学びを通じて、子どもたち一人ひとりが持つ多様な可能性を広げられる環境を提供する取り組みをしています。この共同研究に参画し、長期入院を余儀なくされている子どもたちの気持ちを大切に、個別最適な学習の機会をご提供すると共に、これまで医療側にかかっていた負担の改善にも寄与できる取り組みとしたいと考えています。



後藤 渉

・学術研究院医歯薬学域（医） 小児医科学 教授 塚原 宏一

岡山大学病院小児科では、病気の治療と同じくらい、子どもたちの“今”の生活を大切にすることを重視しています。今回の取り組みによって、長期入院中の子どもたちが学びを通して自分の可能性を育み、それを実現させられる環境を提供できることを嬉しく思います。教育支援を通じて、医療と社会をつなぐ新しい価値を生み出したいと考えています。



塚原 教授

・学術研究院医療開発領域（岡山大学病院） 小児科 助教 鷺尾 佳奈

日々診療の中で、子どもたちが“勉強したい”“みんなと同じように学校に行きたい”という思いを抱いていることを実感しています。この研究は、そうした子どもたちの声に寄り添うものです。病気と向き合いながらも、自分のペースで学び続けられる環境があることは、子どもたちにとって大きな支えになります。医療者としても、教育という視点を大切にした診療を心がけていきたいです。



鷺尾 助教

■発表内容

【現状】

岡山大学病院小児科には、さまざまな難治疾患を有する子どもたちが入院しています。例えば小児がんは長期入院を伴うことが多く、治療により学校生活から長期間離れることになり、こうした子どもたちは学習機会を失うのみならず、学年相応の学力形成や学校とのつながりの維持にも困難を抱えます。

岡山大学病院には院内学級が設置されており、入院中の子どもたちに対して教育の継続を支える体制が整っています。しかし、長期入院を余儀なくされる子どもたちは強い治療を受けることも多く、個々の子どもの病状や治療スケジュール、学力、意欲に応じた柔軟な対応が求められており、より個別化された学習支援の充実が課題となっています。岡山大学病院小児科はこの点について継続的に取り組んでおり、2024年3月には「“入院中でも勉強したい”病とたたかう子どもの想いに応える環境整備を」と題してクラウドファンディング^{※1}を行い、岡山大学教育学部と協力して遠隔教育支援の体制を整えてまいりました。

PRESS RELEASE

【共同研究の取り組み】

このたび、岡山大学病院小児科の新たな取り組みとして、岡山大学病院小児科と株式会社ベネッセコーポレーションが、長期入院を余儀なくされる小児患者の教育支援に関する共同研究契約を締結しました。本研究では、ベネッセが提供する「進研ゼミ」のタブレット教材を活用し、治療と並行しながら自分のペースで学び続けられる仕組みを導入します。この中で、希望する子どもたちは無償で教材を使用でき、療養環境下でも自宅や学校に近い学習体験を得ることが可能になります。



【今後の展望】

教材の使用ログや教育支援中の記録を分析することで、学力の維持だけでなく、子どもの心理的安定や社会的つながりへの効果も多角的に評価することが可能になります。今後は、岡山大学教育学部や情報科学分野と連携し、教育支援時に生成される文字起こしデータや学習ログに対して、AI技術等を用いた解析を行うことを計画しています（別研究）。これにより、子どもの活気や学習への積極性といった要素を定量的に可視化し、治療と学習の両立に最適な支援のタイミングや方法を明らかにしていく予定です。また、この取り組みを通じて、教育・医療・テクノロジーが連携した新たな小児療養支援モデルの確立を目指します。

【補足・用語説明】

1) プレスリリース「岡山大学×READYFOR」クラウドファンディングプロジェクト公開 ～『入院中でも勉強がしたい』病とたたかう子どもの想いに応える環境整備を～

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12910.html